

令和2年産大崎地域の 大豆作技術情報（第2号）

令和2年6月22日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～生育・栽培のポイント～

- 播種後の少雨により出芽揃いに日数を要しています。
- 茎葉処理剤を適切に散布し、雑草対策を徹底しましょう。
- 中耕・培土は2回行いましょう。

1 気象経過

○最高気温は5月6半旬以降は平年より高くなり、最低気温は5月5半旬以降は平年より高くなりました。

○日照時間は5月6半旬～6月2半旬までは平年より多くなりました。

○降水量は平年より少なく、特に5月6半旬～6月2半旬は少雨となっています。

表1 5月下旬～6月3半旬の気象（括弧内は平年差・比）

月半旬別	最高気温(℃)	最低気温(℃)	日照時間(時間)	降水量(mm)
5月5半旬	18.5(-2.5)	11.7(+0.6)	7.6(24%)	15.5(87%)
5月6半旬	25.0(+3.2)	12.6(+0.6)	67.3(174%)	2.5(14%)
6月1半旬	27.1(+4.7)	16.8(+3.8)	38.3(126%)	0.5(3%)
6月2半旬	28.5(+5.7)	14.4(+0.6)	56.8(210%)	0(0%)
6月3半旬	27.7(+4.6)	18.0(+3.4)	25.2(103%)	14.5(76%)

東北地方1か月予報

(6月20日から7月19日までの天候見通し)

令和2年6月18日

仙台管区气象台 発表※抜粋

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	20	30	50
【降水量】	東北地方	30	30	40
【日照時間】	東北地方	20	40	40

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	20	40	40
2週目	東北地方	20	40	40
3～4週目	東北地方	20	30	50

2 雑草防除

(1) 茎葉処理剤散布のポイント

- 大豆の2～3葉期（雑草が小さいとき）を目安に散布しましょう。
- ほ場に発生する雑草を知り、それぞれ効果が高い除草剤を散布しましょう。
- 大豆バサグラン液剤とアタックショット乳剤では、それぞれ効果が高い雑草が異なります。ほ場に発生する雑草を知り、それに合わせた除草剤を選択しましょう。

▶ 大豆バサグラン液剤の特徴

- 除草効果を高めるために、散布は遅くとも開花の2週間前には終える。
- 除草効果を優先する場合は、高温・多照条件で散布する。
- 薬害回避を優先する場合は、極端な高温・多照を避ける。
- 散布後に低温・寡少が続くと除草効果が劣る。

大豆バサグラン液剤の効果が高い雑草



オオイヌタデ



アメリカセンダングサ

▶ アタックショット乳剤の特徴

- 高温で効果が下がる場合があるが、大豆バサグラン液剤より効果の変動は小さい。
- 薬害症状が大豆バサグラン液剤より発生しやすく、低温により症状が大きくなる。
- 散布前後48時間で平均気温25℃以上にて、効果がやや低下する場合がある。

アタックショット乳剤の効果が高い雑草



シロザ



ホソアオゲイトウ



イヌホオズキ

表2 茎葉処理剤一覧

除草剤名	対象	使用時期	希釈倍数使用量 (散布液量)	本剤の 使用回数
大豆 バサグラン 液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆の2葉期～開花前 (雑草の発生初期～6葉期) (ただし収穫45日前まで)	100～150mL/10a (100L/10a)	1回
アタック ショット 乳剤	一年生広葉雑草	本葉2葉期～開花前 (雑草生育期) (ただし収穫45日前まで)	30～50mL/10a (100L/10a)	1回

農薬の登録情報(令和2年6月10日現在)

(2) 難防除雑草対策のポイント

難防除雑草(アレチウリ, 帰化アサガオ類)は種子の発生量が多く, 圃場への蔓延が非常に早く拡大していきます。難防除雑草は効率的な防除がないことから, 早めの対策を行い, 防除を徹底しましょう。

▶ 難防除雑草は入れない・広げない

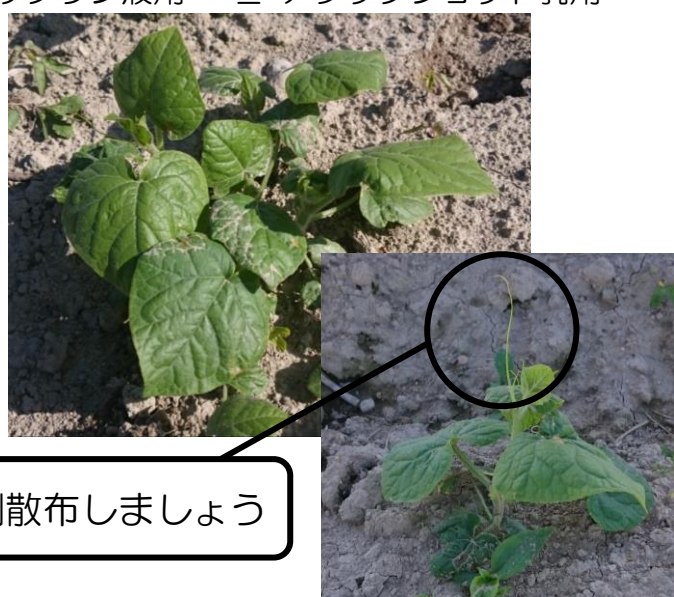
- 圃場の周辺に気を配る : 畦畔など圃場の周辺から侵入することが多い。
- 雑草を他の圃場に移動しない: 発生圃場の機械作業は最後に行い, 終わったら必ず洗う。
- 侵入初期に手取りを含めて徹底的に防除する。

▶ 茎葉処理剤散布のポイント

- 大豆の2～3葉期(雑草が小さいとき)を目安に早めに散布しましょう。
- つるが伸びると大豆に絡みつき, 薬剤が掛かりにくくなるので, つるが伸びる前(小さいうち)に散布しましょう。※つるが伸びて大きいものは手取りしましょう。
- 気象条件によって効果の高い薬剤が異なります。
 - ・低日照の場合 : アタックショット乳剤 > 大豆バサグラン液剤
 - ・一定の日照がある場合 : 大豆バサグラン液剤 ≥ アタックショット乳剤



つるが伸びる前に薬剤散布しましょう



帰化アサガオ類

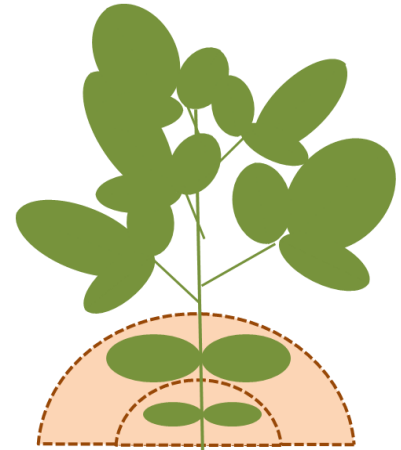
アレチウリ

3 中耕・培土

中耕・培土には不定根による生育促進や土壌の攪拌による雑草の耕種的防除等の様々な効果があります。作業時期に合わせて適切に行いましょう。

中耕・培土の目安（5月下旬～6月上旬播種）

回数	作業時期	培土の高さ
1回目	本葉 2～3 葉期	子葉が隠れる程度
2回目	本葉 6～7 葉期	初生葉が隠れる程度



▶ 中耕・培土の留意点

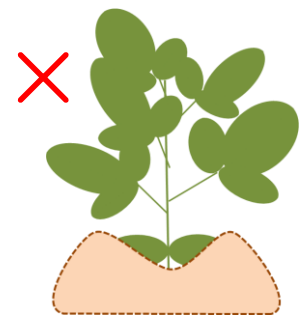
○効果を高めるために 2 回必ず行う。

※雑草の発生が著しい場合は 3 回行う。

○開花期の約 10 日前に終わらせましょう。

○株元へしっかり土寄せを行いましょう。株元に土が掛からないと、以下の影響が考えられます。

- ・水たまりができる（湿害の誘因）
- ・不定根の発生抑制（生育不良）
- ・倒伏しやすくなり、刈り取りが困難



◆◆◆◆◆春の農作業安全確認運動実施中（4月1日～6月30日）◆◆◆◆◆

農作業中の事故は農業機械によるものが多く、また、機械の転倒や転落が大きな要因となっています。あぜ越えや路肩を走行する際は油断せずに、後方確認を行い足元にも注意しましょう。

重点推進テーマ 「見直そう！農業機械作業の安全対策」

◆◆◆◆◆農薬危害防止運動（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆

6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。